

平成から新しい時代に  
かわろうとしている今こそ、  
ポジティブなマインドを持って  
前進していきます。

外部環境に左右されるのではなく、  
中から新しい活力を創ろうという  
マインドが大切です。

昨年の後半以降、テレビや新聞では、中国の景気減速がさかんにとり上げられていますが、経営する上では外部環境に左右されるのではなく、ポジティブな戦略的思考をもとに、内部から新しい活力や価値を創っていく努力や工夫が必要と考えています。中国のGDPは日本の3倍もあるほど巨大ですから、経済成長率がたとえ6%台になったとしても、さほど心配する必要はないと思います。むしろ中国に関して心配なのは、半導体まわりの状況変化です。中国への半導体需要がかつてないほど落ち込んでおり、それが日本経済に今後どのように影響してくるかという点を、慎重に見ていく必要があります。

一方日本経済も、景気のサイクルからいって、下向きサイクルに入っているのは間違いありません。しかしこうした状況下でも、ポジティブなマインドを持って課題に向きあえば、新たな需要を創りだすことは可能です。その意味でこれからの時代は、俯瞰して考える能力や自ら課題をみつけ解決する力がますます重要になるといえるでしょう。

ヤスハラケミカル株式会社  
代表取締役社長

安原 稔 二

Teiji Yasuhara

## 会社での働き方と 余暇時間の使い方を見直すことで、 新たな活力を創造していきます。

ヤスハラケミカルでは、社員一人ひとりの「人のチカラ」を育てるためのさまざまな人材育成や研修を取り入れています。昨年度からは、新たに「働き方改革」と「工場間相互交流」をテーマにした2つの取り組みをはじめました。

当社の目指す「働き方改革<sup>(※1)</sup>」は、「働き方を見直すことで時間あたりの生産性を向上させる」ことが目的です。その結果、各社員が仕事を早く終わらせ帰宅することができれば、自分のための「余暇時間」が生まれます。

余暇時間には、地域の活動や祭り、ボランティア活動などにも積極的に参加して欲しいと話しています。インターネットなどで簡単に情報が得られる今の時代には、本質を読み解く読解力や、人と対話したり協調する能力が求められるし、重要だと思うからです。社員一人ひとりが余暇時間を充実させて、人と話したり、人と協力して何かをやる機会を増やすことで、仕事の面での解決能力も増し、会社の活力もさらに高まっていくと思います。

(※1) 詳細はP.9 特集①「働き方改革への取り組み」をご参照ください。

## 各工場の課題や工夫を共有化することで、 会社全体の現場力を高めていきます。

ヤスハラケミカルには、福山・新居浜・鶴飼・総領の4工場があります。現在、生産本部主導により全社的な業務の標準化・効率化を進めており、各工場間の情報共有や連携も重要との思いから、まずは工場長・課長の相互交流を行い、昨年度からは班長の交流研修<sup>(※2)</sup>をはじめました。

班長はプレイングマネージャーとして、自ら作業を行いつつチームをまとめ生産効率を高めていく重要な立場ですから、班長ならではの苦労や悩みも抱えています。

そうした課題を解決するには、他の工場のやり方を直接

みることでヒントを得たり、自分の仕事を客観的に見つめ直す機会になり、気づくことも多いと期待しています。また同じ立場で同じような悩みを持つ班長同士が互いの課題を共有し合うことも、課題解決のためには重要なことと考えています。

(※2) 詳細はP.11 特集②「工場間相互交流への取り組み」をご参照ください。

## 一人ひとりが 問題意識を持って行動することで、 やがて大きなプラスの回転を 生みだせると思います。

昨年、日本各地をこれまでにないほどの豪雨や台風などの異常気象が襲い、たいへんな被害をもたらしました。地球温暖化への対応は一刻の猶予もなく、その原因であるCO2抑制を求める声がヨーロッパを中心に年々高まってきます。こうした課題を解決するには、この問題を他人事ではなく、一人ひとりが自分の問題として考えるようになることが大切です。

また日本の人口減少問題も深刻な課題です。しかし見方を変えれば、女性の社会進出を促す機会にもなり、男性の育児参加という新しい文化や社会性を生み出すきっかけになるかもしれません。これも一人ひとりが、自ら考えて行動しはじめなければ変わっていきません。

一人ひとりの変化は小さいかもしれませんが、それがまともまっていけば、やがて大きな変化になっていきます。私は平成から新しい時代が変わっていく今こそ、一人ひとりが変わり大きな変化にしていくいい機会であり、プラスの回転を生み出すチャンスでもあると信じています。